

輪之内町小学生交流事業 鹿児島派遣を終えて

鹿児島派遣団長

行きは台風19号、帰りは20号の接近により、実施が心配されましたが、鹿児島ではまずまずの好天に恵まれ、数多くの貴重な体験をすることができました。17年ぶりの交流復活から2回目の派遣であり、今後の交流継続・発展のための責任を感じつつ、3日間を過ごしました。



木野隆之 輪之内町長様を始め、箕浦靖男 教育長様、町の関係機関の皆様、深いご理解とご支援をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。

鹿児島市教育委員会や南方小学校の先生方は、出迎え・見送り・交流会の進行等とても丁寧に対応してくださり、ありがたかったです。子どもたちは太鼓の演技に感動し、その後の集団あそびでも盛り上がり、楽しいひとときを過ごすことができました。

噴煙を上げる桜島をバックに仙巖園にて 昨年度より交流の時間は減ってしまいましたが、人数は昨年度より多く、内容の濃い交流ができました。

花尾神社は「さつま日光」と呼ばれるに相応しく、細かく色鮮やかで芸術的な欄間が印象的でした。普段は入ることができない場所まで見ることができたため、子どもたちはとても意欲的に質問し、詳しくメモを取ったため、予定していた時間より長く熱心な見学となりました。桜島は鹿児島県のシンボルとして、堂々とした姿でそびえていました。今年はゴーゴーという音は聞こえませんでした。今年は火山灰の多い日で、目をショボショボしながら見学しました。



ガイドから仙巖園の説明を受ける児童たち

岐阜県、中でも西濃地方に住む私たちは宝暦治水の縁により、鹿児島のことをよく知っています。実際に見学することにより、さらに鹿児島と岐阜県のつながりを実感し感動することもできます。しかし、鹿児島の方々は岐阜県への関心が高いわけではありません。今後、双方向の交流が復活することを願っています。鹿児島の方々には、高くて頑丈な堤防、排水機、川の水面より家屋の方が低い所、天井川、見渡す限りの平地と田畑、福東や牧の子が揖斐川を渡る通学、千本松原に驚いてもらえんと思います。

ありがとうございました。



島津藩が取り持つ「岐阜と鹿児島の縁」